

移動式廃棄処理事業について



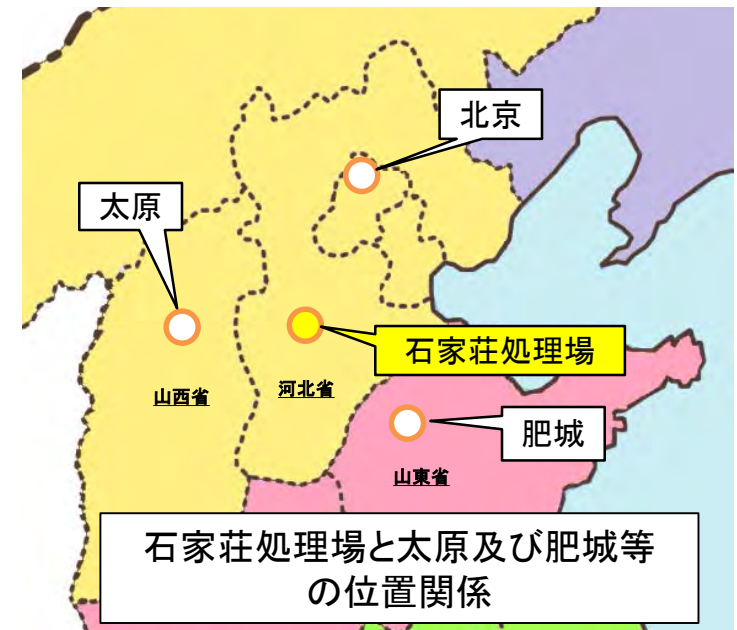
平成28年11月2日(水)
第16回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

1. 石家荘の廃棄処理事業
2. ハルビンの廃棄処理場の準備
3. 武漢の廃棄処理事業完了後の状況
4. 移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄処理状況

石家荘の廃棄処理事業

【進捗状況】

- 本年8月、きい剤補給容器4缶の廃棄処理を完了。現在、太原から転送した222発の信管なし砲弾、及び石家荘において追加で遺棄化学兵器と確認された40発の砲弾等の廃棄処理を実施中。（10月末時点累計2,319発（分離した薬莖9発を除く。））



【今後の見通し】

- 今後肥城で外務省が行う現地調査及びその後の発掘・回収事業*において遺棄化学兵器と確認された砲弾等につき、来年度以降の石家荘での処理の可能性も含め検討。

* 発掘・回収事業は外務省現地調査の結果を踏まえ、必要に応じて実施。

きい剤補給容器の処理

処理までの主な流れ

開梱・設置



穿孔



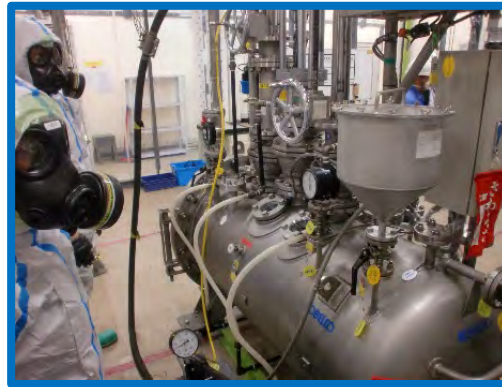
抽出・小分け



補助爆薬取付



爆破処理



きい剤の小分け作業時におけるトラブル



① きい剤漏洩

開けるべきバルブを閉じたまま抽出ポンプを可動させたため、加圧によって管が損傷し、亀裂から負圧維持された施設(コンテインメント)内で少量のきい剤が漏洩した。早急な対応により、化学剤の拡散等の問題は生じなかった。

② 再小分け作業

きい剤の小分け作業を重量管理により実施すべきところ、容量(体積)のみを注視し、重量を十分に確認して作業を実施しなかったため、再小分け作業を増やす結果となった。



両案件とも、実施工程の組み換え等により、処理スケジュールの遅延は生じなかった。また、再度、作業手順を十分に確認し、チェック体制・安全対策の強化及び再発防止に努めた。

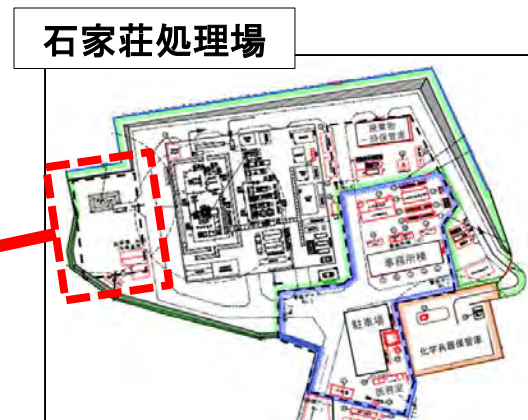
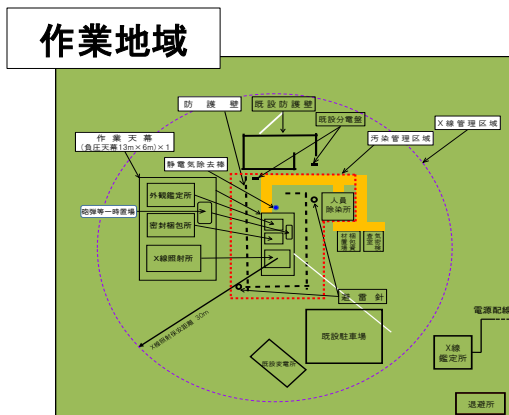
石家荘の廃棄処理事業（追加砲弾の処理）

1 処置の状況

石家荘における追加砲弾等（計40発）について、外務省の現地調査と連携し、廃棄処理準備として鑑定作業等を実施。

2 対象砲弾等の鑑定結果

番号	名称	口径	数量	備考	
1	あか弾	75mm	12発	—	
2		90mm	10発		
3		105mm	1発		
4		150mm	1発		
5	きい弾	75mm	1発		
6		90mm	7発		
7		105mm	1発		
8	あおしろ弾	75mm	3発		
9	伝火薬筒	—	1発		105mmきい弾用
10	炸薬筒	—	3発		90mmあか弾用



石家荘の廃棄処理事業（追加砲弾の処理）

化学剤検知の状況



外観鑑定の状況



X線鑑定の状況



密封梱包の状況

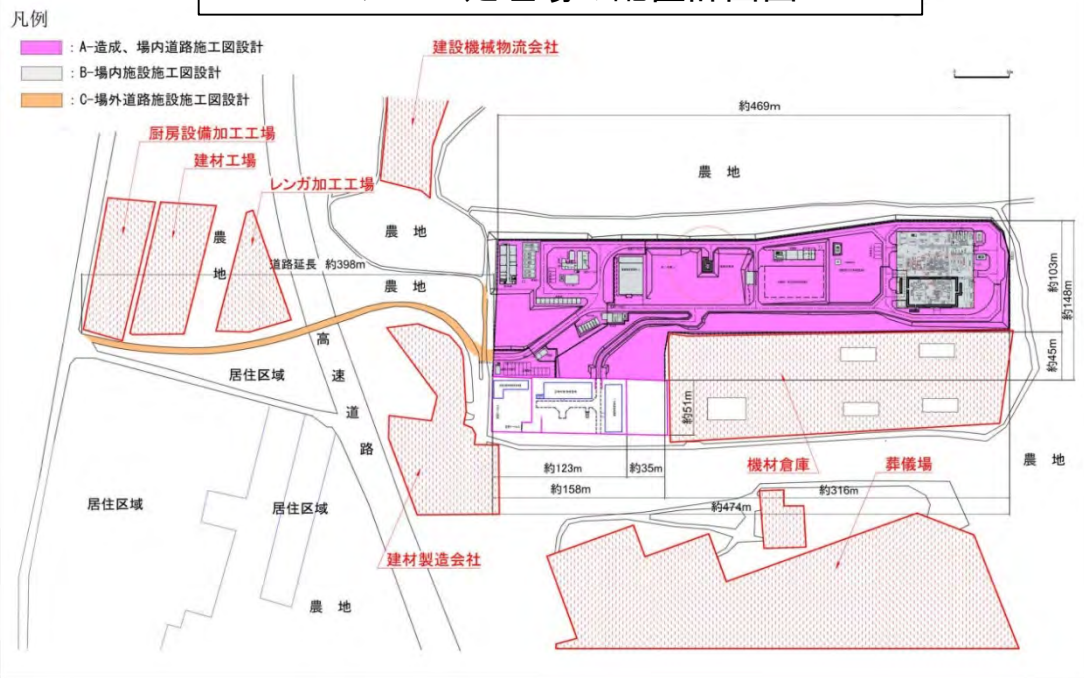


ハルビンの廃棄処理場の準備

【進捗状況】

○ 本年9月末、処理場予定地内の敷地造成及び場内道路等が完成。

ハルビン処理場の配置計画図



敷地造成及び場内道路等の完成状況

【今後の見通し】

○ 処理場予定地内の建物工事等を実施する予定。

武漢の廃棄処理事業完了後の状況

【進捗状況】

- 264発の砲弾等処理し、2015年7月に事業を完了。
- 処理設備は、今後ハルビンへ展開するための改造を施すため、2016年1月に日本へ返送。
- 2016年5月に原状回復を完了。廃棄物保管エリア以外の用地については中国側に返還。



武漢処理場(原状回復前)



武漢処理場(原状回復後)

【今後の見通し】

- 廃棄物の処分方法について日中間で協議する。

【現時点での廃棄状況】

- 南京 …… 2012年に廃棄処理完了
- 武漢 …… 2015年に廃棄処理完了
- 石家荘 …… 廃棄処理を実施中
- ハルビン…… 処理場建設中
- 広州 …… 用地選定中

- これまでに廃棄計画の対象となる遺棄化学兵器42,849発の内37,486発(約87%)を処理。その他、天津等で回収された遺棄化学兵器764発を処理。
- 広州及びハルビンにおける廃棄処理は2017年以降に実施。

【参考】

「2012年4月29日の後の移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄計画」

日本政府は、中華人民共和国の保管庫に保管され、2012年4月29日現在で既に化学兵器禁止機関に申告された遺棄化学兵器(ハルバ嶺に埋設され、又は保管されているものを除く。)について、できる限り2016年中の廃棄完了の目標を達成することを目指して最善の努力を払う。

【今後の見通し】

- 2017年以降の移動式処理設備による廃棄事業の計画について、日中実施当局間で協議。